

その日は暑い夜でした 忘れることは出来ません

七月一日の熊本まんげきょうの空襲です。

突然、夜空に万華鏡まんげきょうの様なキラキラとした照明弾なるものが落とされました。夜が真昼の様な明るさ。我を忘れて、しばし呆然と見とれていました。と思う間もなく、爆発音と共に束になった焼夷弾しょういだんが落されました。

今では、照明弾・焼夷弾・防空壕ぼうくうごうといっても戦争を知らない今の人達には理解できない言葉でしょう。

「あぶない早く逃げろ」の声に防空壕より脱出。焼けている家々の熱さで防火用水の水をかぶりながら人の動く方へ、側溝などを伝って逃げました。

焼夷弾を落す時、落とすとき、誘発剤として油をまいたのでしょうか。其の火のついた油が防空頭巾・モンペに付き、慌てて消したのを覚えています。その時、足に受けた焼夷弾の火傷のあとは、戦場の傷跡として今でも残っています。油に指先が触れ、爪がとれる程の火傷も受けましたが、幸いに指は回復する事が出来ました。

世が空け行方知れずになった妹を探しながら、這って逃げた場所へと様子を確認しに出かけ、驚きました。道路に等間隔に六角形の焼夷弾の筒がささっていました。それも這って逃げた五メートル程横でした。幸いなことに、直撃を受けずに命びろいしました。（その後、その筒が物不足のせいか、何故か電車の切符入れに使用されていました）

これは、体験しましたほんの一部、枝葉末節しやうまつせつ、アウトラインだけの記録です。もっと怖い体験があり、語りつくせぬ程の苦難でした。

最後に機銃掃射を受けた時の恐怖、また長崎の原爆で亡くなった伯父のところへ・・・その時の長崎の悲惨さも見てとれました。

他にも戦争の残忍さ怖さを体験しました。

これが私の女学校三年生の時の出来事です。現在八十四歳、平和のため語り継ぐ戦争体験になりますかは疑問ですが、節目として、したためてみました。